

氏名	田 頭 周 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2421号
学位授与の日付	平成14年9月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系放射線医学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Preoperative Localization of Small Pulmonary Lesions with a System Using a Short Hookwire and Suture: Experience with 168 Procedures (糸付きフックワイヤーによる肺野小病変に対する術前標識:168手技の経験)
論文審査委員	教授 田中紀章 教授 谷本光音 教授 森田 潔

学位論文内容の要旨

肺野病変に対する胸腔鏡下肺切除術前に糸付きフックワイヤーを用いた標識を施行した150例168病変を検討した。2施設(施設A、施設B)のうち施設Aでの前期40病変(A1群)と後期88病変(A2群)およびA2と重複する時期の施設Bの40病変(B群)の3群に症例を分け比較した。全体として146例164病変(97.6%)でフックワイヤーは逸脱なく留置に成功し、3群とも高い成功率を示した。手技に要した時間・病変の大きさ・病変と胸膜の距離に差はなかった。A2、B群では結節にすりガラス様濃度上昇を伴う病変と原発性肺癌がA1群より有意に多かった。合併症として気胸(32.1%)、肺出血(15%)があったが他の標識法と同等であった。重篤なものや胸膜痛の訴えはなかった。不成功例はシステムの刺入が浅いことが原因と考えられた。本システムによる標識法は高い成功率・複数病変への同時留置・長時間待機が許容されること・患者の苦痛が少ないことが示され、本法の有用性が確認された。

論文審査結果の要旨

本研究は、肺野病変に対する胸腔鏡下肺切除術に於ける、術前の糸付きフックワイヤーを用いた標識術の意義を150例168病変について施設と時期によって3群に症例を分け、比較検討したものである。全体として97.6%でフックワイヤーは逸脱なく留置に成功し、手技に要した時間・病変の大きさ・病変と胸膜の距離に差はなかった。合併症として気胸(32.1%)、肺出血(15%)があったが、重篤なものや胸膜痛の訴えはなかった。本法は高い成功率を有し、複数病変への同時留置・長時間待機が許容され、患者の苦痛が少ないことが示され、その有用性が確認された。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。